

(個人研究テーマ)

家庭・地域との連携における教頭の役割

1. 研究テーマの設定にあたって

本校の学区は豊かな自然環境に恵まれ、保護者や地域の人々が学校の教育活動に協力的で、その分、学校に寄せる期待も大きい。着任以来、人と人との絆をととても大切にしていることがこの地域のよさであり、本校の教育活動の基盤にもなっているということを様々な機会に強く感じてきた。この地域のよさを学校経営に生かすことができるように連絡調整することが教頭の役割として大きいと考え、このテーマを設定した。

2. 今年度の取り組みについて

(1)「共に育てる」ために

- ・ 本校は中堅教員が多く、授業研究にも大変前向きである。校長のリーダーシップのもとに、子ども同士の学び合う関係づくりを学校経営の中核に据えて、保護者にその意義を発信している。3世代同居の家庭が多く、子どもの教育に対する考え方も多様で、さまざまな意見要望が寄せられる。担任と二人三脚でその声に耳を傾け、家庭と地域と学校が「共に育てる」という基本姿勢で応えていくようにしている。また、「みんなの登校日」をはじめとする学校公開の機会には、保護者も授業に参加できる「参加型授業」を工夫したり、放課した後の子どもたちを世話している祖父母やその同世代の方々と交流したりすることなどを積極的に行っている。

- ・ 学区には、小中学校のPTAで組織する「岩見三内地区連合PTA」がある。また、子ども見守り隊、地区体育文化協会等の組織もあり、地域住民のほとんどがこの組織のいずれかにかかわっている。学校報「せせらぎ」を広く地域の方々に配布することは学校に対して関心をよせていただくきっかけになっている。また、小学校と中学校との合同で開催される5月の運動会には町内ごとのテントが設置され、地域住民の多くが参加し、温かい応援が繰り広げられる。このような地域の教育を支えるしっかりした組織とその活動を絶好の機会ととらえ、地域の人々とのコミュニケーションを図ることで、体験活動や生活指導を充実させることができると考える。

(2)児童の安全確保のために

小学生が犯罪に巻き込まれる事件が多発する中、学校としても地域住民の力を借りて、子どもの安全確保についての対策を講じなければならない昨今である。本校では、学団または全校での集団下校体制をとり、教職員も交代で通学路をパトロールすることを継続中である。一方、4月に発足した子ども見守り隊組織は、PTA役員をリーダーとして、町内ごとに緊急連絡や出動体制をとれるように何度も見直してきた。これらの活動も地域との連携の必要性を感じていることの一つである。

3. 成果と課題

授業を参観したある保護者から「先生が子どもたちみんなを笑顔で見守ってくれているから安心できる。」という声をいただいた。なんでもない一言のようであるが、子どもたちに向けて教師の眼差しから、学校に対する信頼の緒を見出していることがわかる。子ども同士の学び合う関係づくりは、一見大変な回り道のように見える事もある。しかし、子どもたちのもつ力を引き出し、子どもらしい柔軟な思考を大切に育てていくことは、なによりも子ども一人一人の自己肯定感を育む。そしてそのようにして育った子どもたちは、お互いに高まっていく望ましい人間関係を築くようになる。これはとりもなおさず、この地域のよさである人と人との絆づくりの基盤になるものである。そのことを保護者が正しく感じとってくださっていることをとても嬉しく思った。教頭として着任した1年目の今年度は、地域を知ることによって精一杯だったが、今後は、もっとアンテナを高くして、学区の自然や人材を生かした体験活動を充実させられるよう、情報収集や組織の活用などにも目を向け、より具体的なプランがもてるよう努めていきたい。